



AutoSupport を使用します

StorageGRID 11.8

NetApp
March 19, 2024

目次

AutoSupport を使用します	1
AutoSupport を使用：概要	1
AutoSupport を設定します	5
AutoSupport パッケージを手動でトリガーする	9
AutoSupport パッケージのトラブルシューティング	10
StorageGRID 経由で E シリーズ AutoSupport パッケージを送信	11

AutoSupport を使用します

AutoSupport を使用：概要

AutoSupport機能を使用すると、StorageGRIDからNetAppテクニカルサポートに健全性パッケージとステータスパッケージを送信できます。

AutoSupportを使用すると、問題の特定と解決にかかる時間を大幅に短縮できます。また、システムのストレージニーズを監視し、新しいノードやサイトを追加する必要があるかどうかを判断するための支援も行います。必要に応じて、AutoSupportパッケージを1つの追加の送信先に送信するように設定できます。

StorageGRIDには、次の2種類のAutoSupportがあります。

StorageGRID AutoSupport

StorageGRIDソフトウェアの問題を報告します。StorageGRIDの初回インストール時にデフォルトで有効になっています。可能です ["デフォルトのAutoSupport設定の変更"](#) 必要に応じて、



StorageGRID AutoSupportが有効になっていない場合は、グリッドマネージャのダッシュボードにメッセージが表示されます。このメッセージには、AutoSupport 設定ページへのリンクが含まれています。メッセージを閉じても、AutoSupport が無効なままであっても、ブラウザキャッシュがクリアされるまでは再度表示されません。

アプライアンスハードウェアAutoSupport

StorageGRIDアプライアンスの問題を報告します。実行する必要があります ["各アプライアンスでのハードウェアAutoSupportの設定"](#)。

Active IQ とは

Active IQ は、ネットアップのインストールベースが提供する予測分析と集合知を活用する、クラウドベースのデジタルアドバイザーです。継続的なリスク評価、予測アラート、規範となるガイダンス、自動化されたアクションによって、問題が発生する前に予防できます。これにより、システムの健全性が向上し、システムの可用性が向上します。

NetApp Support SiteでActive IQのダッシュボードと機能を使用する場合は、AutoSupportを有効にする必要があります。

["Active IQ Digital Advisorのドキュメント"](#)

AutoSupportパッケージに含まれる情報

AutoSupportパッケージには、次のXMLファイルと詳細が含まれています。

ファイル名	フィールド	説明
autosupport-history.xml	AutoSupportシーケンス番号+ このAutoSupportの宛先+ トリガーイベント+ 配送状況+ 配信試行+ AutoSupport件名+ 配信URI 前回のエラー+ AutoSupport PUTファイル名+ 生成時刻+ AutoSupportの圧縮後のサイズ+ AutoSupportの解凍後のサイズ+ 合計収集時間（ミリ秒）	AutoSupport履歴ファイル
autosupport.xml	ノード+ サポートに連絡するためのプロトコル+ HTTP / HTTPS のサポートURL サポートアドレス AutoSupport OnDemandの状態+ AutoSupport OnDemandサーバのURL+ AutoSupport OnDemandポーリング間隔	AutoSupportステータスファイル。使用するプロトコル、テクニカルサポートのURLとアドレス、ポーリング間隔、OnDemand AutoSupport（有効または無効）の詳細が表示されます。
buckets.xml	バケットID+ アカウントID+ ビルドバージョン+ ロケーション制約の設定+ コンプライアンス有効+ コンプライアンス構成+ S3オブジェクトロック有効+ S3オブジェクトロック設定+ 整合性設定+ CORS有効+ CORS設定+ 最終アクセス時間有効+ 有効なポリシー+ ポリシー設定+ 通知有効+ 通知設定+ CloudMirror有効+ CloudMirrorの設定+ 検索有効+ 構成の検索+ Swift読み取りACL有効+ Swift読み取りACLの設定+ Swift書き込みACL有効+ Swift書き込みACLの設定+ バケットタグ付け有効+ バケットのタグ付け設定+ バージョン管理の設定	設定の詳細と統計がバケットレベルで表示されます。バケット設定の例には、プラットフォームサービス、準拠、バケット整合性などがあります。
grid-configurations.xml	属性ID+ 属性名+ 価値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	グリッド全体の設定情報ファイル。グリッド証明書、メタデータリザーブスペース、グリッド全体の設定（準拠、S3オブジェクトロック、オブジェクト圧縮、アラート、syslog、およびILMの設定）、イレイジャーコーディングプロファイルの詳細、DNS名、"NMS名" など。

ファイル名	フィールド	説明
GRID-SPEC.xml	グリッド仕様、raw XML	StorageGRIDの設定と導入に使用します。ノードのグリッド仕様、NTPサーバIP、DNSサーバIP、ネットワークポート、およびハードウェアプロファイルが含まれます。
grid-tasks.xml	ノード+ サービスパス+ 属性ID+ 属性名+ 値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	グリッドタスク（メンテナンス手順）のステータスファイル。グリッドのアクティブなタスク、終了したタスク、完了したタスク、失敗したタスク、および保留中のタスクの詳細が表示されます。
ilm-status.xml	ノード+ サービスパス+ 属性ID+ 属性名+ 値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	ILM指標情報ファイル。各ノードのILM評価速度とグリッド全体の指標が格納されます。
ilm.xml	ILM raw XML	ILMのアクティブポリシーファイル。ストレージプールID、取り込み動作、フィルタ、ルール、概要など、アクティブなILMポリシーの詳細が格納されます。
LOG.TGZ	n/a	ダウンロード可能なログファイル。が含まれます bycast-err.log および servermanager.log（各ノードから）。
manifest.xml	回収順序+ このデータのAutoSupportコンテンツファイル名+ このデータ項目の概要+ 収集されたバイト数+ 収集に要した時間+ このデータ項目のステータス+ エラーの概要+ このデータのAutoSupportコンテンツタイプ+	すべてのAutoSupport XMLファイルのAutoSupportメタデータと簡単な説明が含まれています。
nms-entities.xml	属性インデックス+ エンティティOID+ ノードID+ デバイスモデルID+ デバイスモデルバージョン+ エンティティ名	のグループエンティティとサービスエンティティ "NMSツリー"。グリッドトポロジの詳細が表示されます。ノードは、ノードで実行されているサービスに基づいて特定できます。
objects-status.xml	ノード+ サービスパス+ 属性ID+ 属性名+ 値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	オブジェクトのステータス（バックグラウンドスキャンステータス、アクティブな転送、転送速度、合計転送数、削除速度など）破損したフラグメント、損失オブジェクト、欠落オブジェクト、修復の試行、スキャン速度 推定スキャン期間、修理完了ステータスなど。

ファイル名	フィールド	説明
server-status.xml	ノード+ サービスパス+ 属性ID+ 属性名+ 価値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	サーバ構成およびイベントファイル。各ノードの詳細が含まれます。プラットフォームタイプ、オペレーティングシステム、設置されているメモリ、使用可能なメモリ、ストレージ接続、ストレージアプライアンスシャーシのシリアル番号、ストレージコントローラで障害が発生したドライブ数、コンピューティングコントローラシャーシの温度、コンピューティングハードウェア、コンピューティングコントローラのシリアル番号、電源装置、ドライブサイズ、ドライブタイプなど。
service-status.xml	ノード+ サービスパス+ 属性ID+ 属性名+ 価値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	サービスノード情報ファイル。割り当てられたテーブル領域、空きテーブル領域、データベースのリーパーメトリック、セグメント修復期間、修復ジョブ期間、自動ジョブ再開、自動ジョブ終了などの詳細が含まれます。 その他多数。
storage-grades.xml	ストレージグレードID+ ストレージグレード名+ ストレージノードID+ ストレージノードのパス	ストレージノードごとのストレージグレード定義ファイル。
概要- attributes.xml	グループOID+ グループパス+ サマリー属性ID+ サマリー属性名+ 価値+ インデックス+ テーブルID+ テーブル名	StorageGRIDの使用状況情報を要約するシステムステータスデータの概要。グリッドの名前、サイトの名前、グリッドあたりおよびサイトあたりのストレージノード数、ライセンスタイプ、ライセンスの容量と使用状況、ソフトウェアのサポート条件、S3処理とSwift処理の詳細などの詳細が表示されます。
system-alarms.xml	ノード+ サービスパス+ 重大度+ alarmed属性+ 属性名+ ステータス+ 価値+ トリガー時間+ 確認応答時間	システムレベルのアラーム（廃止）とステータスデータ。異常なアクティビティや潜在的な問題を示します。
system-alerts.xml	名前+ 重大度+ ノード名+ アラートステータス+ サイト名+ アラートトリガー日時+ アラート解決時間+ ルールID+ ノードID+ サイトID+ 消音+ その他の注釈+ その他のラベル	StorageGRIDシステムの潜在的な問題を示す現在のシステムアラート。

ファイル名	フィールド	説明
USERAGENTS.xml	ユーザーエージェント+ 日数+ 合計HTTP要求+ 取り込まれた総バイト数+ 取得された総バイト数+ PUT要求+ GETリクエスト+ 削除要求+ HEAD要求+ POSTリクエスト+ OPTIONSリクエスト+ 平均要求時間 (ミリ秒) + PUT要求の平均時間 (ミリ秒) + GET要求時間の平均 (ミリ秒) + 削除要求の平均時間 (ミリ秒) + 平均ヘッド要求時間 (ミリ秒) + 平均POST要求時間 (ミリ秒) + 平均OPTIONS要求時間 (ミリ秒)	アプリケーションユーザーエージェントに基づく統計。たとえば、ユーザーエージェントあたりのPUT / GET / DELETE / HEAD処理の数や、各処理の合計バイトサイズなどです。
Xヘッダーデータ	x-netapp-asup-generated-on+ x-netapp-asup-hostname+ x-netapp-asup-os-version+ x-netapp-asup-serial-num+ x-netapp-asup-subject+ x-netapp-asup-system-id+ x-netapp-asup-model-name+	AutoSupportヘッダーデータ。

AutoSupport を設定します

デフォルトでは、StorageGRID AutoSupport機能はStorageGRIDの初回インストール時に有効になっています。ただし、各アプライアンスでハードウェアAutoSupportを設定する必要があります。必要に応じて、AutoSupportの設定を変更できます。

StorageGRID AutoSupportの設定を変更する場合は、プライマリ管理ノードでのみ変更を行います。実行する必要があります [ハードウェアAutoSupportの設定](#) 各アプライアンス。

作業を開始する前に

- を使用して Grid Manager にサインインします ["サポートされている Web ブラウザ"](#)。
- を使用することができます ["rootアクセス権限"](#)。
- AutoSupportパッケージの送信にHTTPSを使用する場合は、プライマリ管理ノードへのアウトバウンドインターネットアクセス（直接または ["プロキシサーバを使用する"](#)（インバウンド接続は必要ありません））。
- [HTTP] StorageGRID AutoSupportページで[HTTP]が選択されている場合は、AutoSupportパッケージをHTTPSとして転送するようにプロキシサーバを設定しています。ネットアップのAutoSupportサーバはHTTPを使用して送信されたパッケージを拒否します。

["管理プロキシの設定について"](#)。

- AutoSupportパッケージのプロトコルとしてSMTPを使用する場合は、SMTPメールサーバを設定しておきます。アラームのEメール通知には同じメールサーバ設定（従来のシステム）が使用されます。

このタスクについて

次のオプションを任意に組み合わせて、AutoSupportパッケージをテクニカルサポートに送信できます。

- 毎週：AutoSupportパッケージを週に1回自動的に送信します。デフォルト設定：Enabled（有効）。
- * Event-triggered *：1時間ごと、または重大なシステムイベントが発生したときに、AutoSupportパッケージを自動的に送信します。デフォルト設定：Enabled（有効）。
- オンデマンド：テクニカルサポートがStorageGRIDシステムにAutoSupportパッケージを自動的に送信するよう要求できるようにします。これは、問題をアクティブに使用している場合（HTTPS AutoSupport転送プロトコルが必要）に役立ちます。デフォルト設定：Disabled（無効）。
- **User-triggered**: AutoSupportパッケージをいつでも手動で送信します。

AutoSupportパッケージのプロトコルを指定する

AutoSupportパッケージの送信には、次のいずれかのプロトコルを使用できます。

- * HTTPS *：これはデフォルトで、新規インストールに推奨される設定です。このプロトコルはポート443を使用します。状況 [AutoSupport オンデマンド機能を有効にします](#)の場合は、HTTPSを使用する必要があります。
- * HTTP *：[HTTP]を選択した場合は、AutoSupportパッケージをHTTPSとして転送するようにプロキシサーバーを設定する必要があります。ネットアップのAutoSupportサーバはHTTPを使用して送信されたパッケージを拒否します。このプロトコルはポート80を使用します。
- * SMTP *：AutoSupportパッケージをEメールで送信する場合は、このオプションを使用します。AutoSupportパッケージのプロトコルとしてSMTPを使用する場合は、**[Legacy Email Setup]**ページ（support > Alarms (legacy) > Legacy Email setup *）でSMTPメールサーバを設定する必要があります。

設定したプロトコルは、すべてのタイプのAutoSupportパッケージの送信に使用されます。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings *を選択します。
2. AutoSupportパッケージの送信に使用するプロトコルを選択します。
3. [HTTPS]*を選択した場合は、テクニカルサポートサーバへの接続を保護するためにNetAppサポート証明書（TLS証明書）を使用するかどうかを選択します。
 - 証明書の確認（デフォルト）：AutoSupportパッケージの送信が安全であることを確認します。ネットアップサポート証明書は、StorageGRID ソフトウェアとともにすでにインストールされています。
 - * 証明書を検証しない *：このオプションは、証明書に一時的な問題があるなど、証明書の検証を使用しない理由が十分な場合にのみ選択してください。
4. [保存（Save）]を選択します。週次パッケージ、ユーザトリガーパッケージ、およびイベントトリガーパッケージはすべて、選択したプロトコルを使用して送信されます。

週次AutoSupportを無効にする

デフォルトでは、StorageGRIDシステムは週に1回テクニカルサポートにAutoSupportパッケージを送信するように設定されています。

週次AutoSupportパッケージが送信されるタイミングを確認するには、* AutoSupport > Results タブに移動し

ます。[毎週のスケジュール (Weekly AutoSupport)]セクションで、[次のスケジュール時間 (Next Scheduled Time)]*の値を確認します。

週次AutoSupportパッケージの自動送信はいつでも無効にすることができます。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings *を選択します。
2. [毎週のAutoSupport を有効にする]*チェックボックスをオフにします。
3. [保存 (Save)]を選択します。

イベントトリガー型AutoSupportの無効化

デフォルトでは、StorageGRIDシステムは、1時間ごと、または重要なアラートやその他の重大なシステムイベントが発生したときにテクニカルサポートにAutoSupportパッケージを送信するように設定されています。

イベントトリガー型AutoSupportはいつでも無効にすることができます。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings *を選択します。
2. [Enable Event-Triggered AutoSupport *]チェックボックスをオフにします。
3. [保存 (Save)]を選択します。

AutoSupport On Demand を有効にする

AutoSupport On Demand は、テクニカルサポートが問題解決に積極的に取り組んでいる場合に役立ちます。

デフォルトでは、AutoSupport On Demand は無効になっています。この機能を有効にすると、テクニカルサポートがStorageGRIDシステムからAutoSupportパッケージを自動的に送信するように要求できます。テクニカルサポートは、AutoSupport On Demand クエリのポーリング間隔も設定できます。

テクニカルサポートは、AutoSupport On Demandを有効または無効にできません。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings *を選択します。
2. プロトコルの * HTTPS * を選択します。
3. [毎週のAutoSupport を有効にする]*チェックボックスをオンにします。
4. [Enable AutoSupport on Demand]*チェックボックスをオンにします。
5. [保存 (Save)]を選択します。

AutoSupport On Demand は有効になっており、テクニカルサポートはAutoSupport On Demand 要求をStorageGRID に送信できます。

ソフトウェアアップデートのチェックを無効にします

デフォルトでは、StorageGRID はネットアップに連絡して、ご使用のシステムでソフトウェアの更新が利用可能かどうかを判断します。StorageGRID ホットフィックスまたは新しいバージョンが利用可能な場合は、

StorageGRID のアップグレードページに新しいバージョンが表示されます。

必要に応じて、ソフトウェアアップデートのチェックを無効にすることもできます。たとえば、WAN でアクセスできないシステムの場合は、ダウンロードエラーを回避するためにチェックを無効にする必要があります。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings * を選択します。
2. [Check for software updates]* チェックボックスをオフにします。
3. [保存 (Save)] を選択します。

AutoSupport デスティネーションを追加します

AutoSupport を有効にすると、ヘルスパッケージとステータスパッケージがテクニカルサポートに送信されます。すべての AutoSupport パッケージに対して、追加の送信先を 1 つ指定できます。

AutoSupport パッケージの送信に使用するプロトコルを確認または変更するには、次の手順を参照してください。 [AutoSupport パッケージのプロトコルの指定](#)。



SMTP プロトコルを使用して AutoSupport パッケージを追加の送信先に送信することはできません。

手順

1. * support > Tools > AutoSupport > Settings * を選択します。
2. [Enable Additional AutoSupport Destination]* を選択します。
3. 次の情報を指定します。

ホスト名

追加の AutoSupport 宛先サーバのサーバホスト名または IP アドレス。



追加の送信先は 1 つだけ入力できます。

ポート

追加の AutoSupport 宛先サーバへの接続に使用するポート。デフォルトは、HTTP の場合はポート 80、HTTPS の場合はポート 443 です。

証明書の検証

TLS 証明書を使用して追加の送信先への接続を保護するかどうか。

- 証明書の検証を使用するには、*証明書の検証* を選択します。
- 証明書の検証なしで AutoSupport パッケージを送信する場合は、[証明書を検証しない]* を選択します。

このオプションは、証明書の検証を使用しない理由がある場合（証明書に一時的な問題がある場合など）にのみ選択してください。

4. [Verify certificate]* を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a. CA証明書の場所を参照します。
- b. CA証明書ファイルをアップロードします。

CA証明書のメタデータが表示されます。

5. [保存 (Save)] を選択します。

今後、毎週、イベントトリガー型、およびユーザトリガー型のすべてのAutoSupportパッケージが追加の送信先に送信されます。

[[autosupport-for-appliances]アプライアンスのAutoSupportの設定

アプライアンスのAutoSupportではStorageGRIDハードウェアの問題が報告され、StorageGRID AutoSupportではStorageGRIDソフトウェアの問題が報告されます。ただし、SGF6112の場合、StorageGRID AutoSupportではハードウェアとソフトウェアの両方の問題が報告されます。SGF6112を除く各アプライアンスでAutoSupportを設定する必要があります。SGF6112は追加の設定は必要ありません。AutoSupportの実装方法は、サービスアプライアンスとストレージアプライアンスで異なります。

SANtricityを使用して、各ストレージアプライアンスのAutoSupportを有効にします。SANtricity AutoSupportは、アプライアンスの初期セットアップ時またはアプライアンスの設置後に設定できます。

- SG6000およびSG5700アプライアンスの場合は、"[SANtricity システムマネージャでAutoSupport を設定します](#)"

でプロキシによるAutoSupport配信を設定した場合、EシリーズアプライアンスのAutoSupportパッケージをStorageGRID AutoSupportに含めることができます。"[SANtricity システムマネージャ](#)"。

StorageGRID AutoSupport では、DIMMやホストインターフェイスカード (HIC) などのハードウェアの問題は報告されません。ただし、一部のコンポーネント障害がトリガーされる可能性があります "[ハードウェアアラート](#)"。ベースボード管理コントローラ (BMC) を搭載したStorageGRID アプライアンス (SG100、SG1000、SG6060、SGF6024など) では、ハードウェア障害を報告するためのEメールおよびSNMPトラップを設定できます。

- "[BMCアラートのEメール通知を設定する](#)"
- "[BMCのSNMP設定を行います](#)" SG6000-CNコントローラ、またはSG100およびSG1000サービスアプライアンスの場合

関連情報

["ネットアップサポート"](#)

AutoSupportパッケージを手動でトリガーする

テクニカルサポートによるStorageGRIDシステムの問題のトラブルシューティングを支援するために、送信するAutoSupportパッケージを手動でトリガーできます。

作業を開始する前に

- を使用して Grid Manager にサインインする必要があります "[サポートされている Web ブラウザ](#)"。
- Root Access権限またはその他のグリッド設定権限が必要です。

手順

1. [* support * > * Tools * > * AutoSupport *] を選択します。
2. [アクション]タブで、*[ユーザートリガー型AutoSupportの送信]*を選択します。

StorageGRIDはAutoSupportパッケージをNetApp Support Siteに送信しようとします。試行に成功した場合は、[結果 (Results)] タブの [最新結果 (Recent Result)] * 値と [前回成功した時間 (Last Successful Time)] * 値が更新されます。問題がある場合は、「最新の結果」の値が「失敗」に更新され、StorageGRIDはAutoSupportパッケージを再送信しません。



User-triggered AutoSupportパッケージを送信したら、1分後にブラウザのAutoSupportページを更新して最新の結果にアクセスしてください。

AutoSupportパッケージのトラブルシューティング

AutoSupportパッケージの送信が失敗した場合、StorageGRIDシステムはAutoSupportパッケージのタイプに応じて異なる処理を実行します。AutoSupportパッケージのステータスを確認するには、* support > Tools > AutoSupport > Results * を選択します。

AutoSupportパッケージの送信に失敗すると、* AutoSupport ページの Results * タブに「Failed」と表示されません。



AutoSupportパッケージをNetAppに転送するようにプロキシサーバを設定した場合は、"[プロキシサーバの設定が正しいことを確認します。](#)"。

週次AutoSupportパッケージエラー

週次AutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムは次の処理を実行します。

1. 最新の結果属性を更新して再試行します。
2. AutoSupportパッケージの再送信を4分ごとに15回、1時間試行します。
3. 送信エラーが1時間発生した後、最新の結果属性を失敗に更新します。
4. 次回のスケジュールされた時刻に、AutoSupportパッケージの送信を再試行します。
5. NMSサービスが使用できないためにパッケージが失敗した場合や、7日前にパッケージが送信された場合は、AutoSupportの通常のスケジュールを維持します。
6. 7日以上パッケージが送信されていない場合、NMSサービスが再び使用可能になると、はAutoSupportパッケージをすぐに送信します。

ユーザトリガー型またはイベントトリガー型のAutoSupportパッケージエラー

ユーザトリガー型またはイベントトリガー型のAutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムは次の処理を実行します。

1. 既知のエラーの場合は、エラーメッセージが表示されます。たとえば、ユーザが正しいEメール設定を指定せずにSMTPプロトコルを選択した場合、次のエラーが表示されます。 AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.

2. パッケージの再送信は試行されません。

3. にエラーを記録します `nms.log`。

プロトコルとして SMTP が選択されている場合に問題が発生した場合は、StorageGRID システムの E メールサーバが正しく設定されていることと、E メールサーバが実行されている（* support * > * Alarms (レガシー) * > * > Legacy Email Setup *）ことを確認します。AutoSupport ページに次のエラーメッセージが表示される場合があります。AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.

方法をご確認ください ["Eメールサーバを設定します"](#)。

AutoSupportパッケージの障害を修正する

プロトコルとして SMTP が選択されている状況で問題が発生した場合は、StorageGRID システムの E メールサーバが正しく設定されていることと、E メールサーバが実行されていることを確認します。AutoSupport ページに次のエラーメッセージが表示される場合があります。AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.

StorageGRID経由でEシリーズAutoSupportパッケージを送信

EシリーズSANtricity System Manager AutoSupportパッケージは、ストレージアプライアンスの管理ポートではなく、StorageGRID管理ノード経由でテクニカルサポートに送信できます。

を参照してください ["EシリーズハードウェアAutoSupport"](#) EシリーズアプライアンスでのAutoSupport の使用の詳細については、[を参照してください](#)。

作業を開始する前に

- を使用して Grid Manager にサインインします ["サポートされている Web ブラウザ"](#)。
- を使用することができます ["ストレージアプライアンス管理者またはRoot Access権限"](#)。
- SANtricity AutoSupport が設定されました。
 - SG6000およびSG5700アプライアンスの場合は、["SANtricity システムマネージャでAutoSupport を設定します"](#)



Grid Manager を使用して SANtricity System Manager にアクセスするには、SANtricity ファームウェア 8.70 以降が必要です。

このタスクについて

EシリーズAutoSupportパッケージには、ストレージハードウェアの詳細が含まれており、StorageGRIDシステムから送信される他のAutoSupportパッケージよりも具体的です。

SANtricity System Managerでは、アプライアンスの管理ポートを使用せずにStorageGRID管理ノード経由でAutoSupportパッケージを送信するように特別なプロキシサーバアドレスを設定できます。この方法で送信されるAutoSupportパッケージは、["優先送信者管理ノード"](#)そして、それらは任意を使用します ["管理プロキシの設定"](#) グリッドマネージャで設定されているデータセンターを選択します。

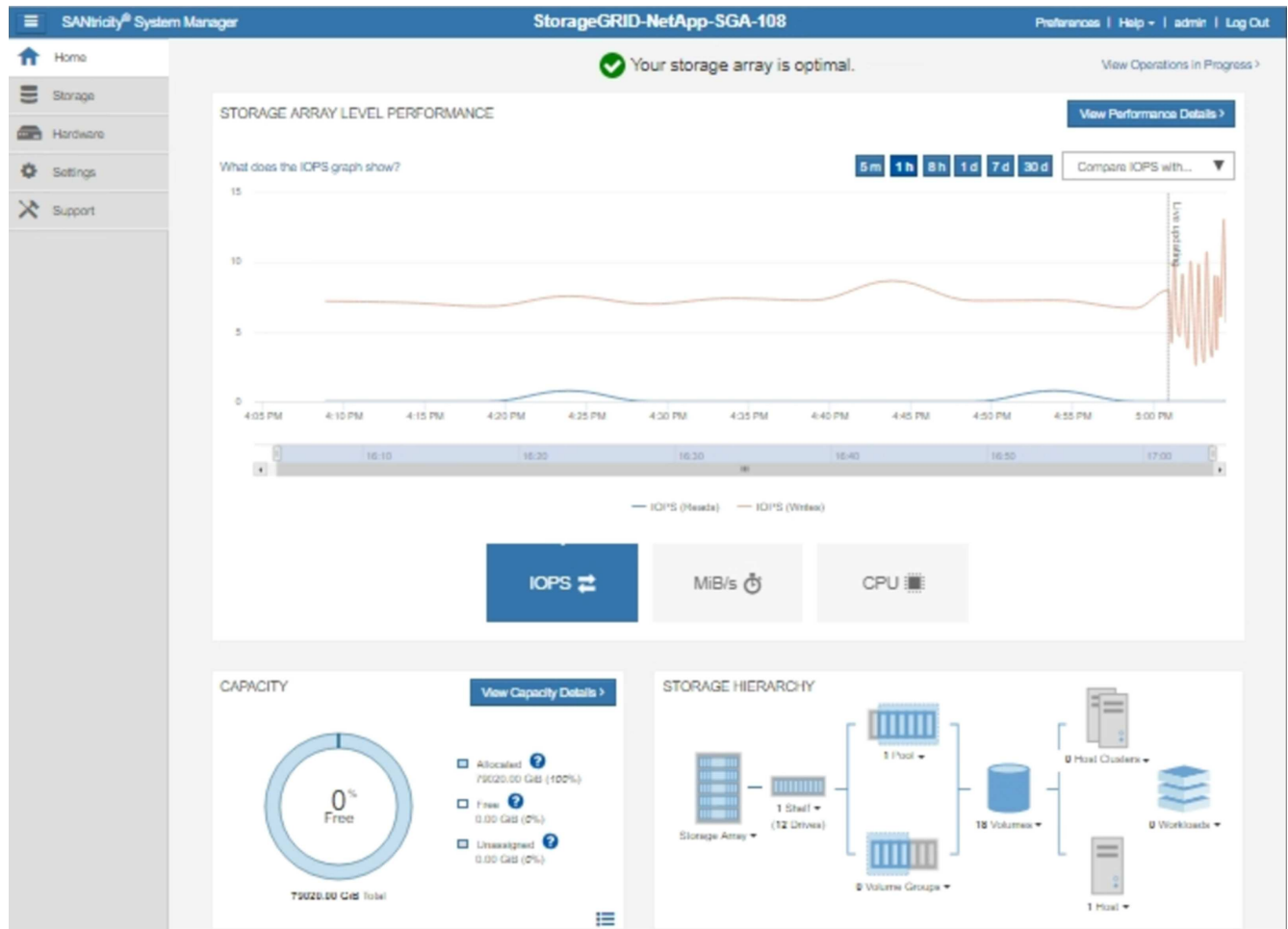


この手順は、EシリーズAutoSupportパッケージ用にStorageGRIDプロキシサーバを設定するためだけに使用します。Eシリーズ AutoSupport 構成の詳細については、を参照してください "[NetApp E シリーズおよび SANtricity に関するドキュメント](#)".

手順

1. Grid Manager で * nodes * を選択します。
2. 左側のノードのリストから、設定するストレージアプライアンスノードを選択します。
3. SANtricity System Manager* を選択します。

SANtricity の System Manager ホームページが表示されます。



4. サポート * > * サポートセンター * > * AutoSupport * を選択します。

AutoSupport operations ページが表示されます。

Support Resources

Diagnostics

AutoSupport

AutoSupport operations

AutoSupport status: Enabled 

[Enable/Disable AutoSupport Features](#)

AutoSupport proactively monitors the health of your storage array and automatically sends support data ("dispatches") to the support team.

[Configure AutoSupport Delivery Method](#)

Connect to the support team via HTTPS, HTTP or Mail (SMTP) server delivery methods.

[Schedule AutoSupport Dispatches](#)

AutoSupport dispatches are sent daily at 03:06 PM UTC and weekly at 07:39 AM UTC on Thursday.

[Send AutoSupport Dispatch](#)

Automatically sends the support team a dispatch to troubleshoot system issues without waiting for periodic dispatches.

[View AutoSupport Log](#)

The AutoSupport log provides information about status, dispatch history, and errors encountered during delivery of AutoSupport dispatches.

[Enable AutoSupport Maintenance Window](#)

Enable AutoSupport Maintenance window to allow maintenance activities to be performed on the storage array without generating support cases.

[Disable AutoSupport Maintenance Window](#)

Disable AutoSupport Maintenance window to allow the storage array to generate support cases on component failures and other destructive actions.

5. AutoSupport 配信方法の設定 * を選択します。

AutoSupport 配信方法の設定ページが表示されます。

Configure AutoSupport Delivery Method

Select AutoSupport dispatch delivery method...

HTTPS
 HTTP
 Email

HTTPS delivery settings Show destination address

Connect to support team...

Directly ?
 via Proxy server ?

Host address ?
tunnel-host

Port number ?
10225

My proxy server requires authentication
 via Proxy auto-configuration script (PAC) ?

Save Test Configuration Cancel

6. 配信方法として「* HTTPS *」を選択します。



HTTPSを有効にする証明書が事前にインストールされています。

7. プロキシサーバー経由 * を選択します。

8. 入力するコマンド `tunnel-host` を入力します。

`tunnel-host` は、管理ノードを使用してEシリーズAutoSupportパッケージを送信するための特別なアドレスです。

9. 入力するコマンド `10225` をクリックします。

`10225` は、アプライアンスのEシリーズコントローラからAutoSupportパッケージを受け取るStorageGRIDプロキシサーバ上のポート番号です。

10. AutoSupport プロキシサーバーのルーティングと設定をテストするには、* テスト構成 * を選択します。

正しい場合は、緑色のバナーに「Your AutoSupport configuration has been verified」というメッセージが

表示されます。

テストに失敗した場合は、赤いバナーが表示されます。StorageGRID DNSの設定とネットワークを確認し、を確認します ["優先送信者管理ノード"](#) NetApp Support Site に接続して、テストを再試行できます。

11. [保存 (Save)] を選択します。

設定が保存され、「AutoSupport配信方法が設定されました」という確認メッセージが表示されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。